

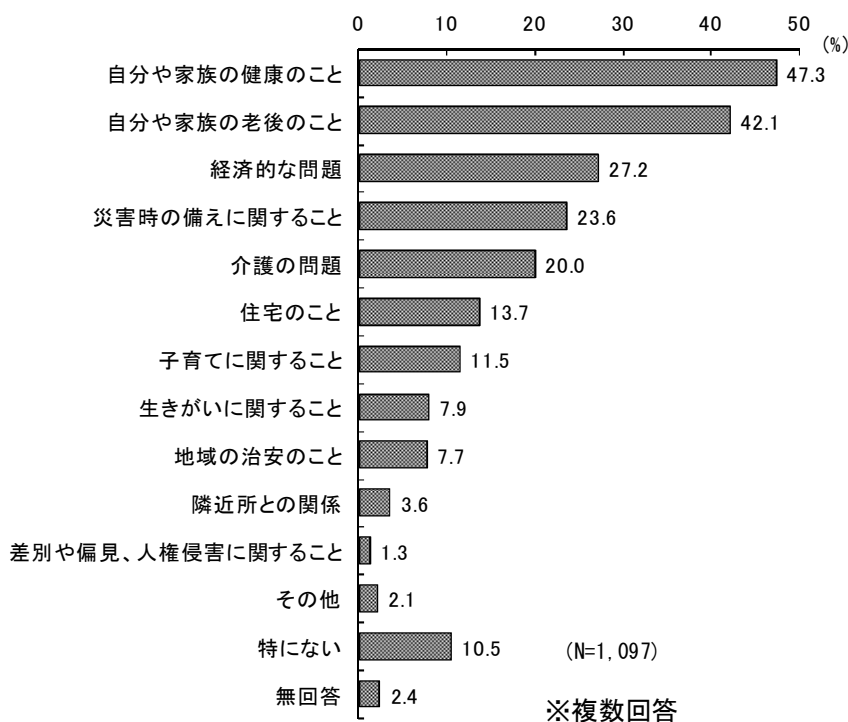
1 地域福祉分野

(1) 一般市民調査

日常生活の悩みや不安

日常生活で感じている悩みや不安についてたずねました。

- 「自分や家族の健康のこと(47.3%)」が最も多く、「自分や家族の老後のこと(42.1%)」、「経済的な問題(27.2%)」が続いています。
- 地区別にみると、いずれの地区でも「自分や家族の健康のこと」が最も多く、「自分や家族の老後のこと」が続いていますが、第一地区、第二地区、第四地区、第五地区では「経済的な問題」、第三地区、第四地区、第六地区では「災害時の備えに関すること」も上位にあがっています。第五地区では「住宅のこと」も全体を5.0ポイント上回っています。

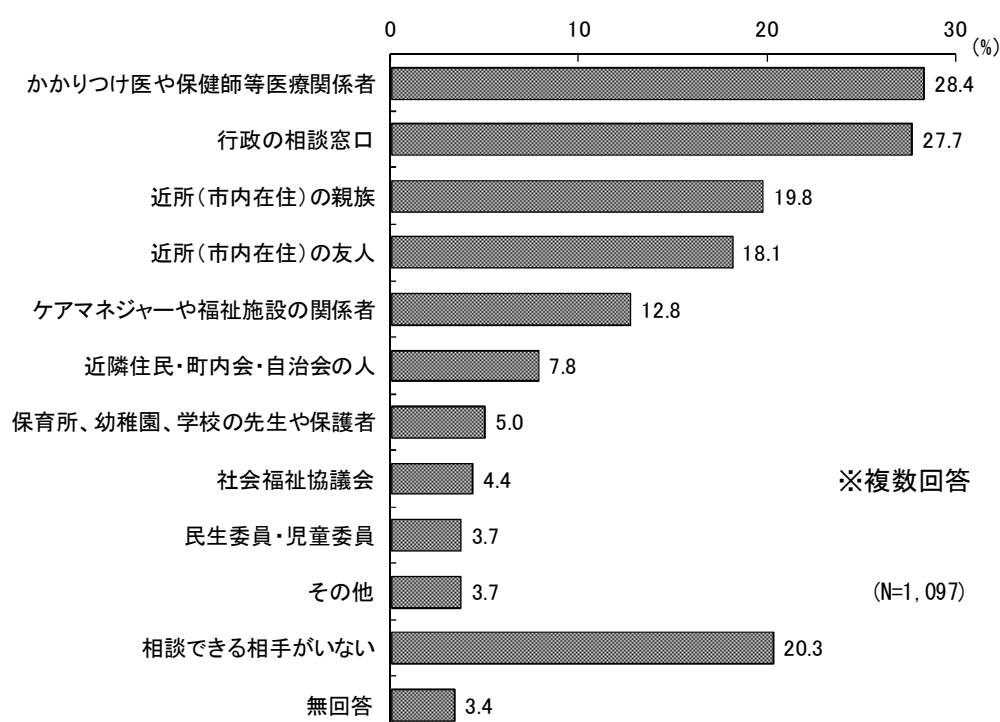


	自分や家族の健康のこと	自分や家族の老後のこと	経済的な問題	災害時の備えに関すること	介護の問題	住宅のこと	子育てに関すること	生きがいにに関すること	地域の治安のこと	隣近所との関係	差別や偏見、人権侵害に関すること	その他	特にない	無回答
全体 (N= 1,097)	47.3	42.1	27.2	23.6	20.0	13.7	11.5	7.9	7.7	3.6	1.3	2.1	10.5	2.4
第一地区 (n= 217)	45.6	38.7	30.0	21.2	20.3	16.6	14.7	6.9	7.4	2.3	0.9	2.8	12.9	0.5
第二地区 (n= 211)	46.9	40.3	29.9	26.1	17.1	11.4	11.8	10.4	8.5	2.8	0.0	1.9	10.9	2.8
第三地区 (n= 183)	43.2	42.1	22.4	25.7	20.8	15.8	9.8	8.2	9.8	3.8	2.2	2.2	9.3	5.5
第四地区 (n= 143)	49.0	49.0	26.6	25.2	22.4	9.1	7.0	6.3	7.0	2.8	1.4	2.8	7.7	2.1
第五地区 (n= 139)	51.1	41.7	25.2	18.0	20.9	18.7	15.8	7.2	7.2	6.5	3.6	2.9	7.9	0.7
第六地区 (n= 191)	49.2	44.5	27.7	24.6	20.4	9.9	9.9	7.9	6.3	3.7	0.0	0.5	11.5	2.1

地域の相談相手

困ったときに、地域で相談したり頼れるところについてたずねました。

- 「かかりつけ医や保健師等医療関係者(28.4%)」が最も多く、「行政の相談窓口(27.7%)」、「近所(市内在住)の親族(19.8%)」が続いています。「相談できる相手がいない」は20.3%です。
- 地区別にみると、第一地区と第三地区では「近所(市内在住)の友人」も多くなっています。また、第二地区では「相談できる相手がいない」は全体よりも2.0ポイント高くなっています。

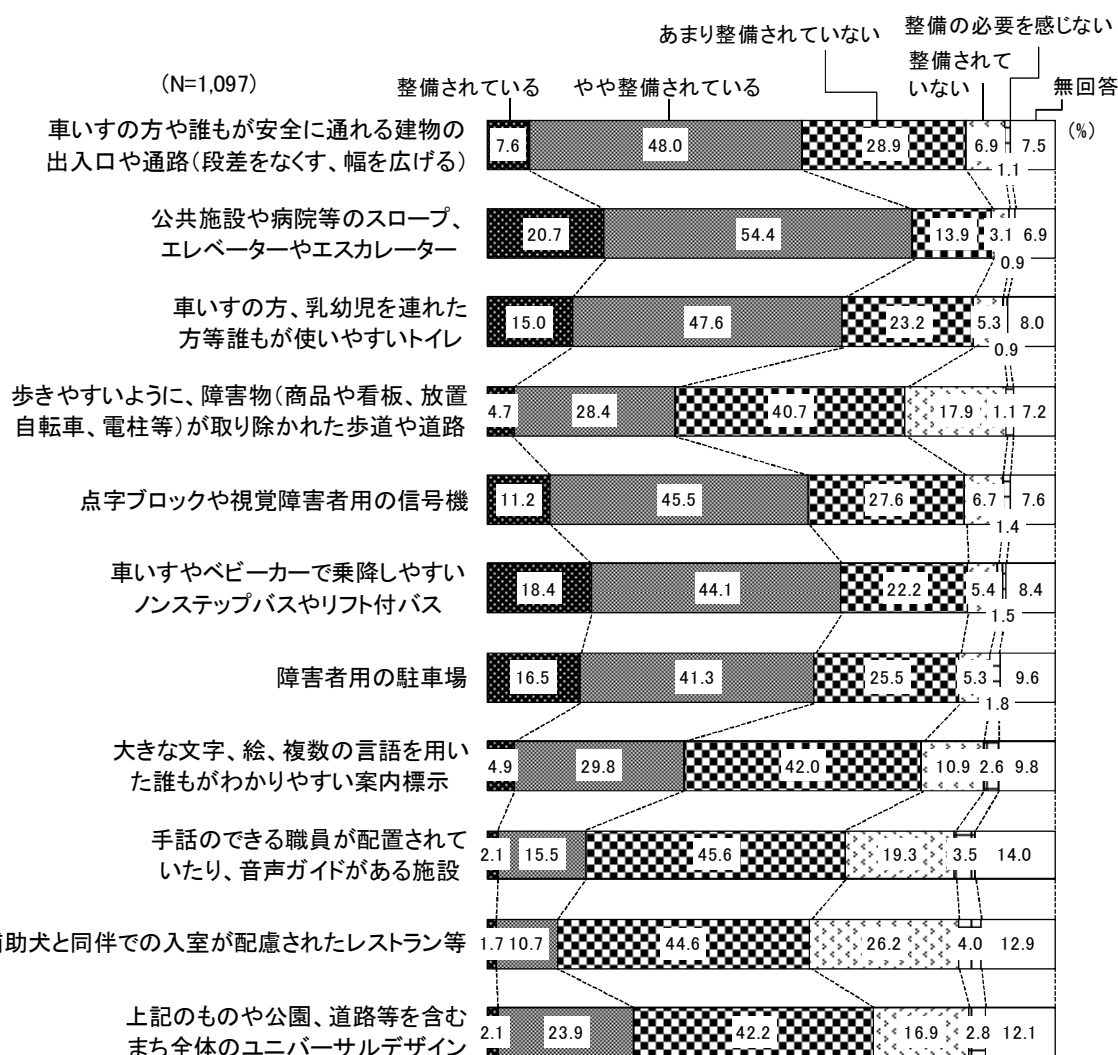


		師 等	行 政	親 近	友 近	社 ケ	自 近	校 保	社 会	民 生	そ の	な い	相 談	無
		か	の	族 所	人 所	施 ア	治 隣	の 育	会 福	委 員	他	相	回	
		か	の	(市	(市	設 マ	住 民	所、	社	員		談	答	
		り	相	内	内	の	・ 町	幼	会	・		で		
		つ	談	在	在	関	内	稚	・	児		き		
		け	窓	住	住	係	会	園、	自	童		る		
		医	口	の	の	者	・	学	治	委		相		
		者		の	の	や	・		会	員		手		
		や		の	の	保	学		・	員		が		
		保		の	の	護			・	員		い		
		健				者			・	員				
全	体 (N= 1,097)	28.4	27.7	19.8	18.1	12.8	7.8	5.0	4.4	3.7	3.7	20.3	3.4	
地 区 別	第 一 地 区 (n= 217)	30.9	25.8	16.1	21.7	13.8	6.5	3.2	4.1	2.8	4.6	18.9	3.2	
	第 二 地 区 (n= 211)	27.5	26.5	21.3	19.9	9.0	10.0	7.1	6.2	4.7	3.3	22.3	2.8	
	第 三 地 区 (n= 183)	26.8	27.3	14.8	16.4	15.3	6.0	5.5	3.3	2.2	4.9	19.7	6.0	
	第 四 地 区 (n= 143)	28.7	32.9	17.5	15.4	13.3	10.5	2.1	2.8	4.9	3.5	18.9	2.1	
	第 五 地 区 (n= 139)	27.3	24.5	24.5	21.6	17.3	7.9	4.3	6.5	3.6	2.2	20.1	1.4	
	第 六 地 区 (n= 191)	30.4	30.4	26.2	14.1	9.9	7.3	6.8	3.1	4.7	3.1	20.4	3.1	

バリアフリー

公共交通機関、情報案内、公園や道路等のバリアフリーについてたずねました。

○「整備されている」と「やや整備されている」をあわせた《整備されている》は、『公共施設等のスロープ、エレベーター等(75.1%)』が最も多く、次いで『誰もが使いやすいトイレ(62.6%)』、『ノンステップバスやリフト付きバス(62.5%)』が6割を超えています。



解説 《用語》

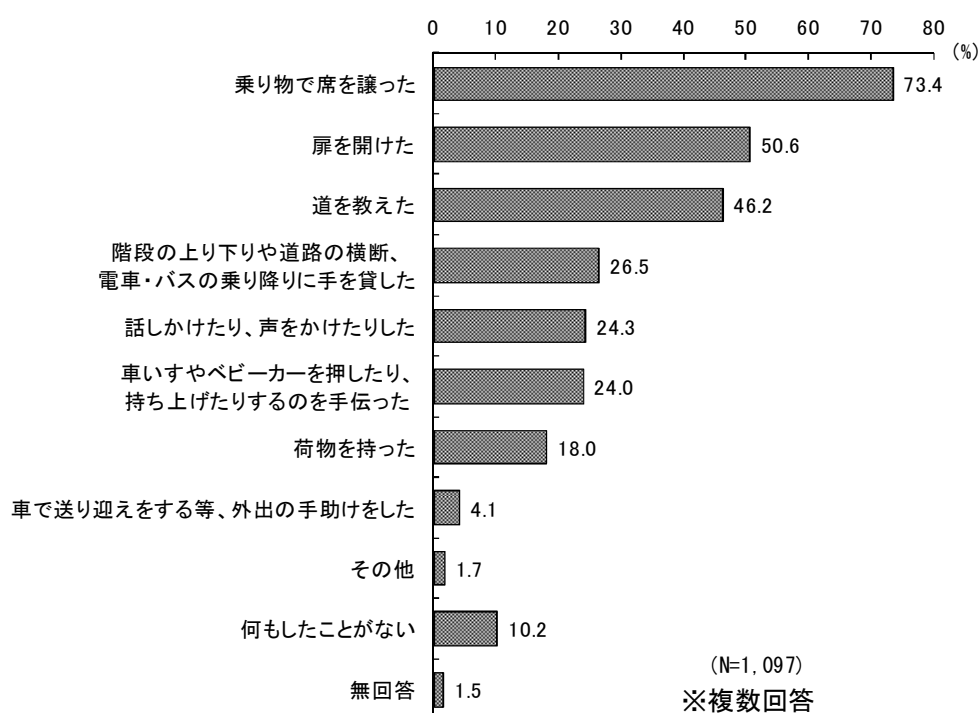
バリアフリー

障害のある人が社会生活をしていくうえで妨げとなる障壁を除去するという意味で、建物や道路などの段差など、生活環境上の物理的障壁の除去のこと。「心のバリアフリー」といった表現で、より広く社会参加を困難にしている社会的・制度的・心理的な全ての障壁の除去という意味でも用いる。

外出先での手助け

街や近所で、障害のある人や高齢者、妊婦、乳幼児を連れた方などに
したことがあるお手伝いについてたずねました。

○「乗り物で席を譲った(73.4%)」が最も多く、「扉を開けた(50.6%)」、「道を教えた(46.2%)」が続いています。



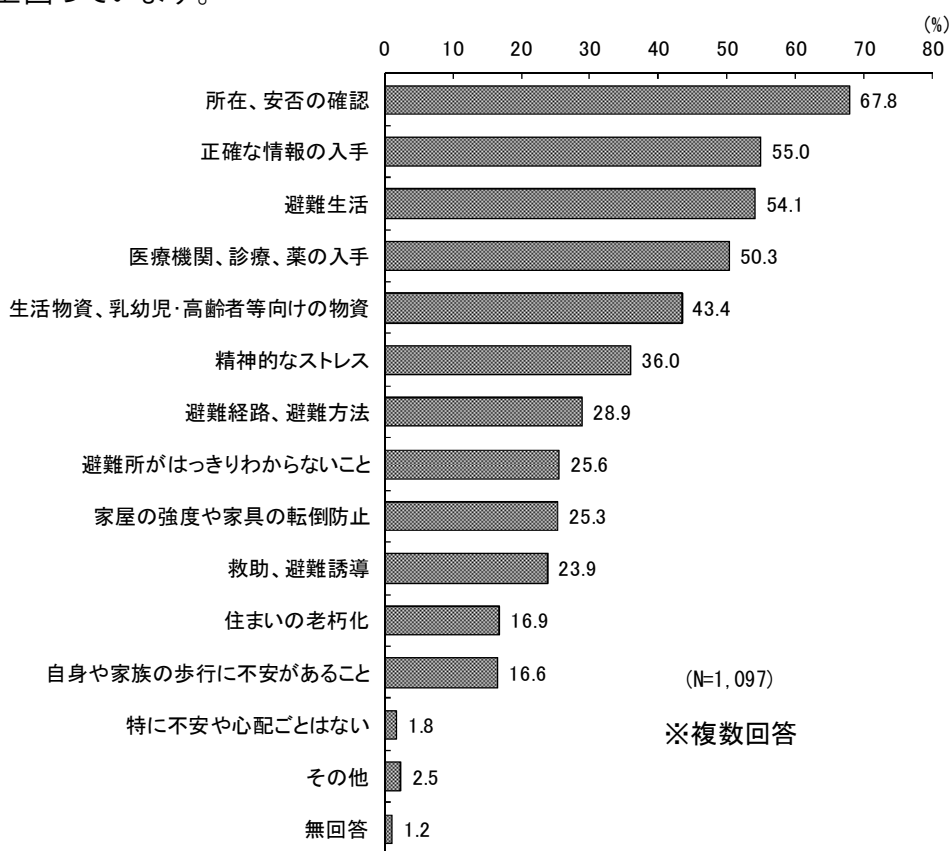
関連する自由回答の抜粋

- ・ 車いすやベビーカーで安全に外出できる環境の整備をしていただきたい。(男性、40～44歳)
- ・ 一人ひとりの人間性が重要であると思います。市が色々な施策を行ったとしても市民の意識が同じ方向を向いていなければ何も始まらないのではと思っています。(女性、50～54歳)
- ・ 福祉、まちづくりとも低年齢期から教育することが最も確実で近道だと考えます。(女性、45～49歳)

災害時の不安や心配ごと

災害時の不安や心配ごとについてたずねました。

- 「所在、安否の確認(67.8%)」が最も多く、「正確な情報の入手(55.0%)」、「避難生活(54.1%)」が続いています。
- 地区別にみると、第三地区では「生活物資、乳幼児、高齢者等向けの物資(48.6%)」、第五地区では「医療機関、診療、薬の入手(55.4%)」と「住まいの老朽化(23.0%)」が全体を5ポイント以上上回っています。

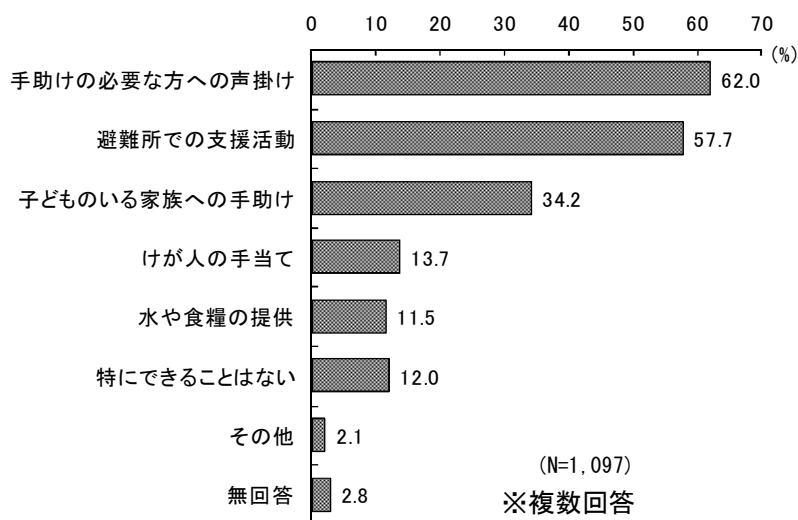


		所在、安否の確認	正確な情報の入手	避難生活	医療機関、診療、薬の入手	生活物資、乳幼児・高齢者等向けの物資	精神的なストレス	避難経路、避難方法	避難所がはっきりわからないこと	家屋の強度や家具の転倒防止	救助、避難誘導	住まいの老朽化	自身や家族の歩行に不安があること	特に不安や心配ごとはない	その他	無回答
全	体 (N= 1,097)	67.8	55.0	54.1	50.3	43.4	36.0	28.9	25.6	25.3	23.9	16.9	16.6	1.8	2.5	1.2
地区別	第一地区 (n= 217)	65.4	53.0	55.8	50.7	42.4	37.3	24.0	30.4	28.6	20.7	16.6	12.4	2.8	1.4	0.5
	第二地区 (n= 211)	60.7	58.3	53.1	46.9	42.2	32.2	36.0	27.5	25.6	25.1	19.4	19.9	2.4	3.3	0.5
	第三地区 (n= 183)	68.3	56.3	54.6	51.4	48.6	38.8	30.6	24.0	20.2	23.5	14.2	20.2	1.6	1.6	1.1
	第四地区 (n= 143)	72.7	54.5	53.8	53.1	44.1	37.1	32.9	24.5	20.3	25.2	16.1	18.9	0.7	3.5	0.7
	第五地区 (n= 139)	72.7	51.8	54.7	55.4	46.0	40.3	18.0	21.6	29.5	22.3	23.0	18.7	1.4	4.3	0.0
	第六地区 (n= 191)	72.3	55.0	53.4	46.6	39.8	33.0	29.8	23.0	27.7	27.2	13.1	10.5	1.0	1.6	3.1

災害時に手助けが必要な方に自分ができること

災害時に地域で手助けが必要な方に自分ができることをたずねました。

- 「手助けの必要な方への声掛け(62.0%)」が最も多く、「避難所での支援活動(57.7%)」、「子どものいる家族への手助け(34.2%)」が続いています。



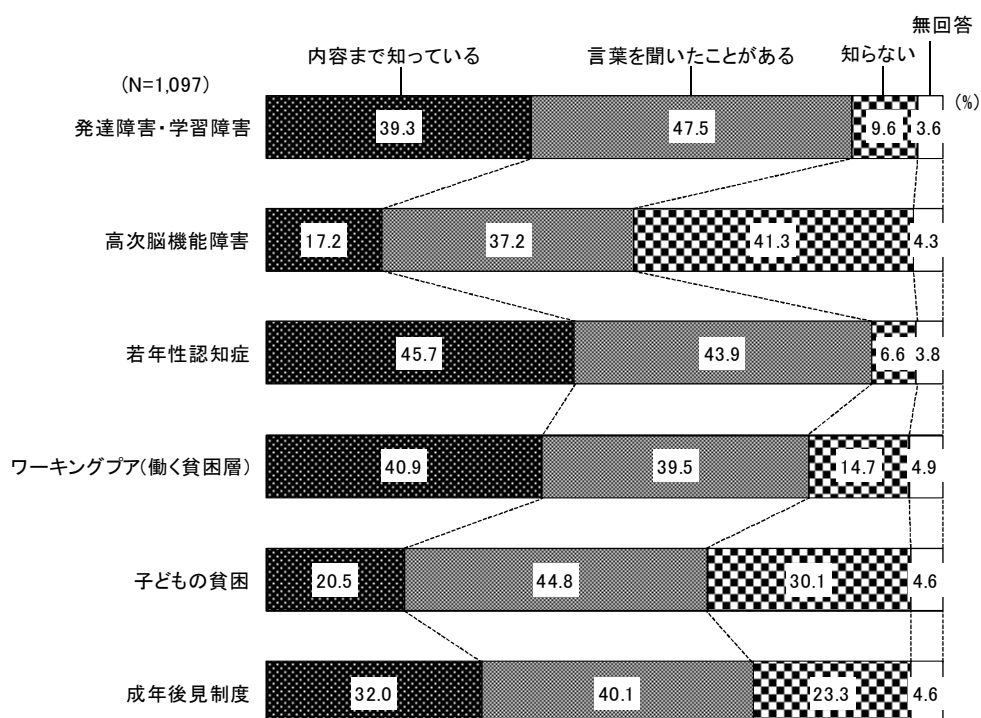
関連する自由回答の抜粋

- ・ 災害にしても福祉にしても地域のつながりが大切だと思います。しかし、我が地域は自治会活動がほぼ消滅状態です。地域のために何かやりたいと思っても、そういう環境、しくみがないのでやりようがありません。(女性、45～49歳)
- ・ 災害時にあなたができることは何かの間に具体的に何が提供できるのか考えさせられました。(女性、35～39歳)

地域で孤立する危険性のある障害等の認知度

地域で孤立する危険性のある障害等の認知度についてたずねました。

○「内容まで知っている」と「言葉を聞いたことがある」を合わせた《知っている》は、『若年性認知症』の89.6%が最も多く、『発達障害・学習障害』の86.8%、『ワーキングプア(働く貧困層)』の80.4%が続いている。



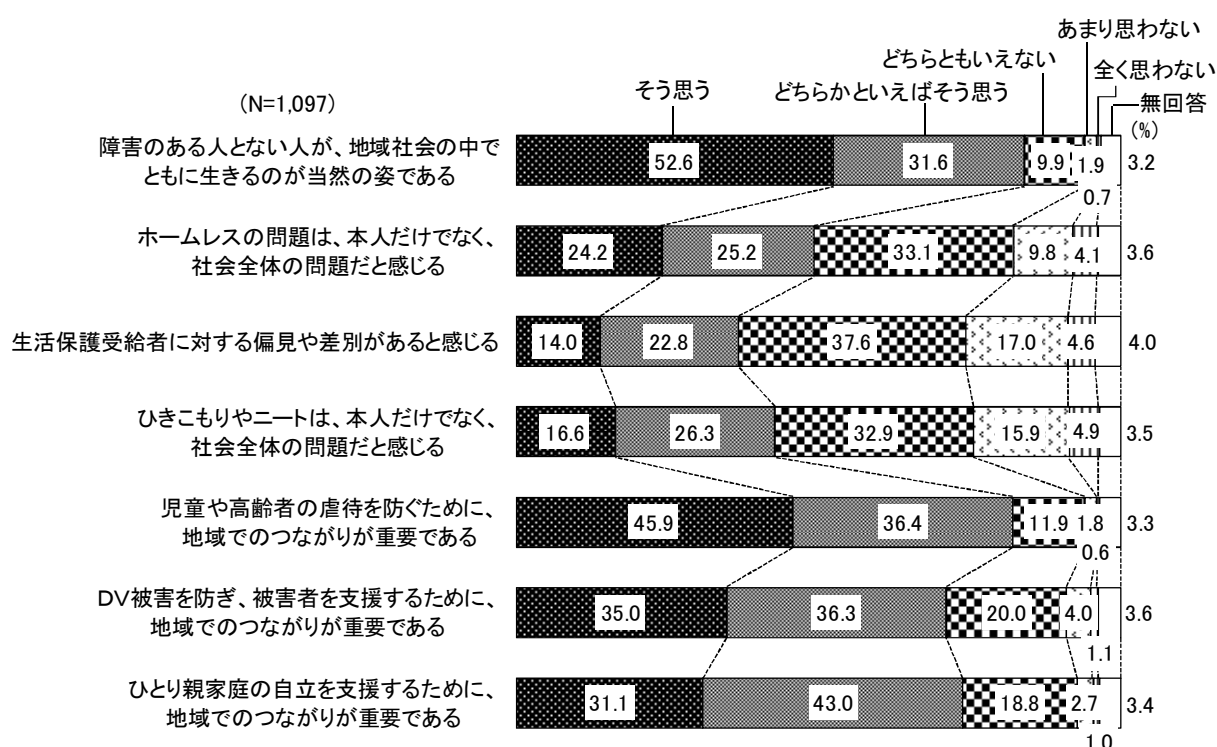
関連する自由回答の抜粋

- ・ ここへ行けば相談にのってくれる、しかるべき所に回してくれる総合窓口を設定しては？ (女性、40～44歳)
- ・ PC以外の情報端末(スマホ、ケータイ等)から簡単に情報入手。可能であれば各種申込みができるようになると非常に便利です。(男性、25～29歳)
- ・ 発達障害は見た目にはわからない障害なので親や周りは見過ごしがちです。障害を抱えながら普通学級に通い辛い思いをしている子ども達がたくさんいると思うのでそういう所を考えてほしいです。(女性、45～49歳)
- ・ 町内会等が若者参加が難しい状態になっているので改善できるようにしてほしい。(男性、35～39歳)

ソーシャルインクルージョン

ソーシャルインクルージョンに関する考え方をたずねました。

- ソーシャルインクルージョンに関する考え方について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた《そう思う》は、『障害のある人とない人が、地域社会の中でともに生きるのが当然の姿である』の84.2%が最も多く、『児童や高齢者の虐待を防ぐために、地域でのつながりが重要である』の82.3%、『ひとり親家庭の自立を支援するために、地域でのつながりが重要である』の74.1%が続いています。



解説 《用語》

ソーシャルインクルージョン

社会的包含。自立生活上何らかの支援を必要としている人々を社会の構成員として社会連帯の中に包み込み、健康で文化的な生活が営めるようにしようとする考え方で、社会から疎外・排除されている人々を地域社会の仲間として受け入れていこうとする概念。

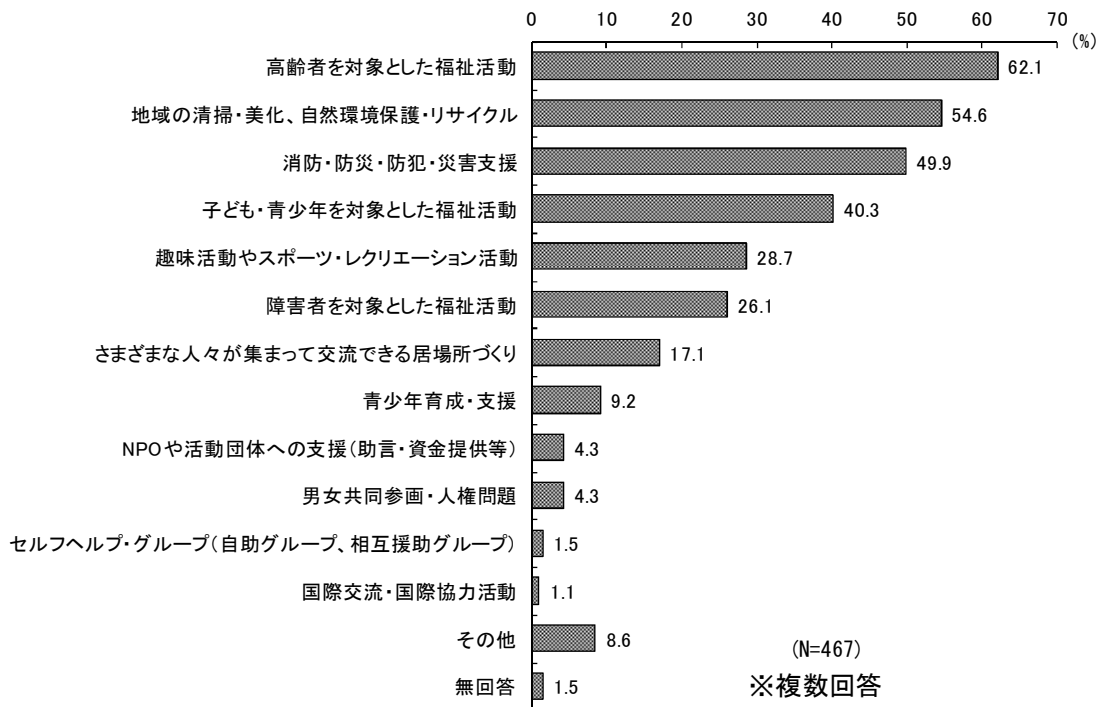
DV(ドメスティック・バイオレンス)

配偶者や恋人等親密な関係にある、又はあつた者から振るわれる暴力。身体的な暴力だけでなく、精神的、経済的、性的な暴力等あらゆる暴力が含まれる。

(2) 担い手調査

日ごろの活動
 どのような活動をしているかたずねました。

- 「高齢者を対象とした福祉活動(62.1%)」が最も多く、「地域の清掃・美化、自然環境保護・リサイクル(54.6%)」、「消防・防災・防犯・災害支援(49.9%)」が続いています。
- 担い手別にみると、民生委員・児童委員は「高齢者を対象とした福祉活動」、町内会・自治会、老人クラブは「地域の清掃・美化、自然環境保護・リサイクル」、NPO等の組織は「障害者を対象とした福祉活動」が最も多くなっています。

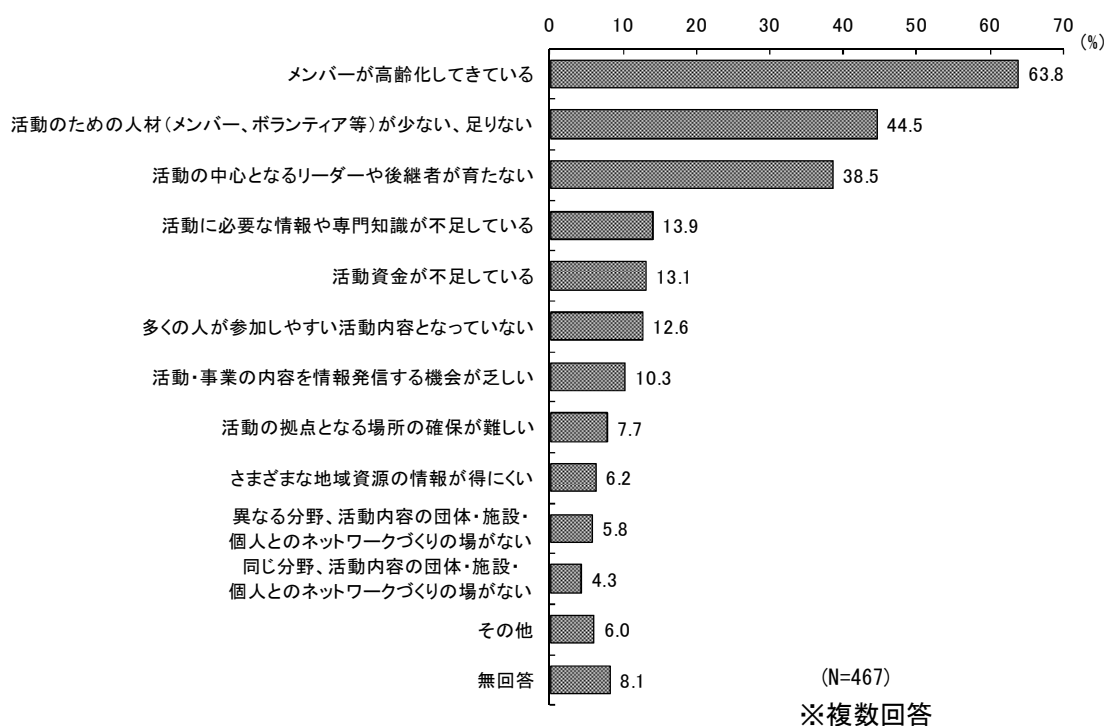


		高齢者を対象とした福祉活動	地域の清掃・美化、自然環境保護	消防・防災・防犯・災害支援	子ども・青少年を対象とした福祉活動	趣味活動やスポーツ・レクリエーション活動	障害者を対象とした福祉活動	さまざまな人々が集まって交流できる居場所づくり	青少年育成・支援	NPOや活動団体への支援(助言・資金提供等)	男女共同参画・人権問題	セルフヘルプ・グループ・相互援助グループ(自助)	国際交流・国際協力活動	その他	無回答
全体 (N= 467)		62.1	54.6	49.9	40.3	28.7	26.1	17.1	9.2	4.3	4.3	1.5	1.1	8.6	1.5
担い手別	民生委員・児童委員 (n= 147)	91.2	20.4	40.8	83.0	8.8	70.1	17.0	19.0	5.4	10.9	1.4	1.4	5.4	0.0
	町内会・自治会 (n= 219)	41.1	70.3	66.7	22.8	23.3	4.1	18.3	5.5	3.7	0.9	0.9	0.5	9.1	2.3
	老人クラブ (n= 77)	75.3	83.1	29.9	15.6	80.5	6.5	15.6	2.6	3.9	0.0	2.6	1.3	9.1	1.3
	NPO等の組織 (n= 15)	13.3	0.0	0.0	26.7	20.0	33.3	20.0	6.7	6.7	13.3	6.7	6.7	26.7	6.7

活動する上で困っていること

活動する上で困っていることや課題をたずねました。

- 「メンバーが高齢化してきている(63.8%)」が最も多く、「活動のための人材(メンバー、ボランティア等)が少ない、足りない(44.5%)」、「活動の中心となるリーダーや後継者が育たない(38.5%)」が続いています。
- 担い手別にみると、民生委員・児童委員、町内会・自治会、老人クラブともに「メンバーが高齢化してきている」が最も多く、NPO等の組織は「活動のための人材(メンバー、ボランティア等)が少ない、足りない」が最も多くなっています。



担い手別	団体 (N= 467)	理由 (%)												
		メンバーが高齢化してきている	活動のための人材(メンバー、ボランティア等)が少ない、足りない	活動の中心となるリーダーや後継者が育たない	活動に必要な情報や専門知識が不足している	活動資金が不足している	多くの人が参加しやすい活動内容となっていない	活動・事業の内容を情報発信する機会が乏しい	活動の拠点となる場所の確保が難しい	さまざまな地域資源の情報が得にくい	異なる分野、活動内容の団体・施設・個人とのネットワークづくりの場がない	同じ分野、活動内容の団体・施設・個人とのネットワークづくりの場がない	その他	無回答
全	体 (N= 467)	63.8	44.5	38.5	13.9	13.1	12.6	10.3	7.7	6.2	5.8	4.3	6.0	8.1
民生委員・児童委員 (n= 147)		39.5	35.4	15.6	21.1	4.1	10.9	15.6	2.7	14.3	9.5	4.1	5.4	15.0
町内会・自治会 (n= 219)		75.3	46.6	43.8	11.9	13.2	15.1	6.8	7.3	1.8	2.7	4.6	6.4	6.4
老人クラブ (n= 77)		85.7	55.8	68.8	9.1	22.1	11.7	7.8	14.3	2.6	7.8	5.2	5.2	2.6
NPO等の組織 (n= 15)		13.3	53.3	20.0	6.7	40.0	6.7	26.7	13.3	13.3	6.7	0.0	13.3	0.0

地域で問題となっていると思うこと

活動を通して、地域で問題となっていると思うことをたずねました。

- 「近隣住民同士の交流の減少(60.6%)」、「日中独居の高齢者、障害者(60.4%)」が6割を超え、「孤立(孤独死)の防止(40.7%)」が続いています。
- 担い手別にみると、民生委員・児童委員は「日中独居の高齢者、障害者」、町内会・自治会、老人クラブ、NPO等の組織は「近隣住民同士の交流の減少」が最も多くなっています。

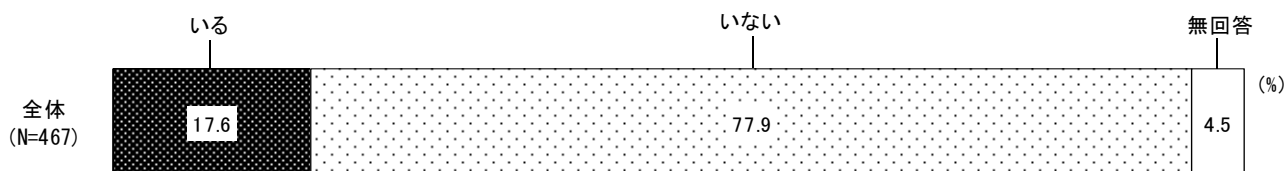
		近隣住民同士の交流の減少	日中独居の高齢者、障害者	孤立(孤独死)の防止	防犯・治安	防災	認知症高齢者の生活支援	福祉サービスに結びついていない人	高齢者と子ども等異世代の交流	道路の段差や放置自転車等	ひきこもり	高齢者や障害者の地域の居場所	障害者の地域生活支援	子ども、高齢者への虐待の予防・対応	近隣との摩擦(ゴミ屋敷、騒音等)	買物困難等生活課題	子育て不安	多問題を抱える世帯	生活困窮者、失業・生活再建等	障害者と地域の人々との交流	配偶者等からの暴力予防、対応	その他	無回答
全	体(N=467)	60.6	60.4	40.7	33.8	33.2	28.7	23.3	22.1	21.0	18.0	15.8	14.3	13.3	12.2	11.6	10.9	9.0	8.8	8.6	4.1	8.1	7.9
担い手別	民生委員・児童委員(n=147)	62.6	77.6	55.8	32.7	32.7	51.7	42.2	27.9	17.7	32.7	21.8	26.5	32.0	15.0	21.1	23.1	19.0	23.1	15.6	10.9	9.5	3.4
	町内会・自治会(n=219)	59.4	53.4	34.2	38.4	37.4	14.2	12.8	18.3	21.9	7.8	10.0	8.7	3.2	14.2	6.8	5.5	4.1	1.8	4.6	0.5	7.3	8.7
	老人クラブ(n=77)	59.7	58.4	36.4	29.9	28.6	28.6	16.9	19.5	23.4	19.5	18.2	5.2	6.5	5.2	7.8	0.0	2.6	1.3	1.3	6.5	14.3	
	NPO等の組織(n=15)	46.7	20.0	6.7	6.7	13.3	13.3	33.3	26.7	13.3	26.7	33.3	33.3	20.0	0.0	6.7	33.3	20.0	6.7	40.0	6.7	13.3	13.3

※複数回答

福祉サービスに結びついていない人

福祉サービスに結びついていない人についてたずねました。

- 支援が必要であるにもかかわらず、福祉サービスに結びついていない人たちの有無は、全体では「いる」が17.6%、「いない」が77.9%となっています。
- 具体例と応援や支援の仕方について、意見・要望を自由記述形式でたずねたところ、ひとり暮らしや経済的問題、セルフネグレクト、支援拒否などのさまざまな問題を抱えた高齢者についての事例が多くあがりましたが、高校退学者への支援、地域包括支援センターが支援できる年齢ではない方への支援、精神的に問題を抱えている人で複合的な問題がある人などがあがりました。

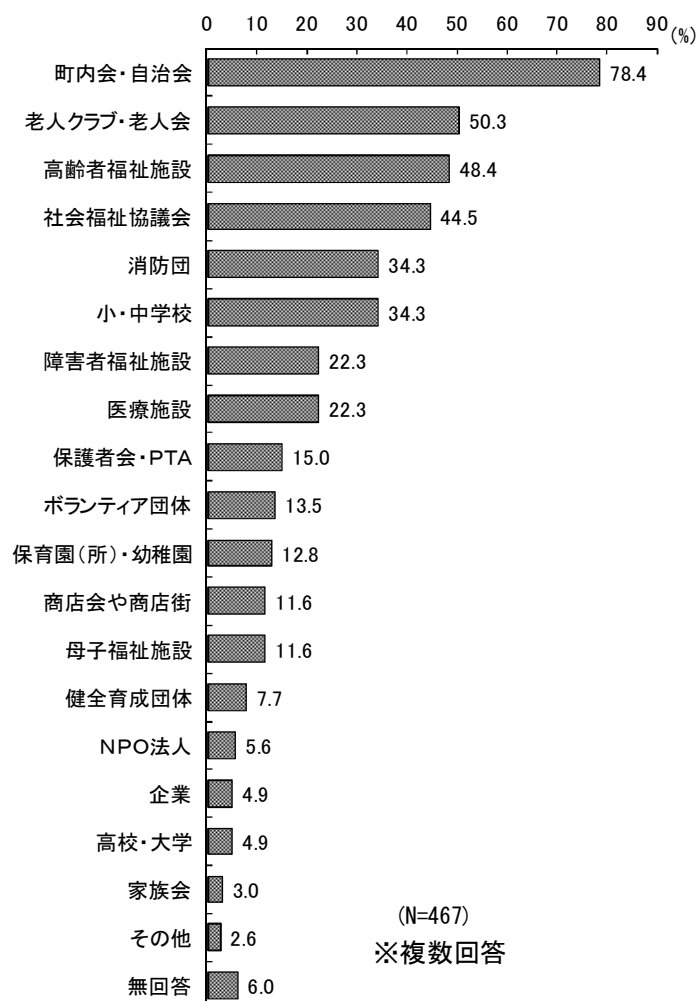


他の団体との交流や協力関係

今後、交流・協力関係を深めたい団体や組織をたずねました。

○「町内会・自治会(78.4%)」が最も多く、「老人クラブ・老人会(50.3%)」、「高齢者福祉施設(48.4%)」が続いています。

○担い手別にみると、民生委員・児童委員、町内会・自治会、老人クラブは「町内会・自治会」、NPO等の組織は、「社会福祉協議会(40.0%)」が最も多くなっています。



担い手別		割合 (%)																			
		町内会・自治会	老人クラブ・老人会	高齢者福祉施設	社会福祉協議会	消防団	小・中学校	障害者福祉施設	医療施設	保護者会・PTA	ボランティア団体	保育園(所)・幼稚園	商店会や商店街	母子福祉施設	健全育成団体	NPO法人	企業	高校・大学	家族会	その他	無回答
全	体 (N= 467)	78.4	50.3	48.4	44.5	34.3	34.3	22.3	22.3	15.0	13.5	12.8	11.6	11.6	7.7	5.6	4.9	4.9	3.0	2.6	6.0
	民生委員・児童委員 (n= 147)	83.7	61.2	68.0	70.1	27.9	63.3	47.6	26.5	21.1	16.3	27.2	10.9	29.9	14.3	8.8	4.8	7.5	6.1	1.4	4.1
	町内会・自治会 (n= 219)	75.8	34.7	32.4	32.4	46.6	24.2	10.5	18.3	13.7	11.0	5.5	10.5	4.1	6.4	4.6	3.7	2.7	1.4	1.4	8.2
	老人クラブ (n= 77)	84.4	80.5	61.0	33.8	18.2	11.7	6.5	26.0	7.8	16.9	5.2	11.7	1.3	1.3	0.0	5.2	1.3	2.6	3.9	5.2
	NPO等の組織 (n= 15)	20.0	13.3	26.7	40.0	0.0	20.0	33.3	26.7	20.0	13.3	26.7	33.3	0.0	0.0	20.0	26.7	26.7	0.0	20.0	0.0

